

名古屋市教育委員会臨時会

令和 6 年 8 月 1 日

午後 3 時00分

東庁舎 5 階大会議室

議 事

日程 1 請願審査について（請願第 7 号）

日程 2 令和 7 年度使用教科用図書の採択及び採択審議について（中学校用社会（地理的分野）、社会（歴史的分野）、社会（公民的分野）、地図、技術・家庭（技術分野）、技術・家庭（家庭分野））

日程 3 訴えの提起について（第 6 号議案）

出席者

坪 田 知 広 教育長

鎌 田 敏 行 委 員

中 谷 素 之 委 員

栗 生 万 琴 委 員

山 本 久 美 委 員

水 野 孝 一 委 員

教育次長始め、事務局員19名 ※傍聴者78名

（坪田教育長）

それでは、ただ今から教育委員会臨時会を開催いたします。

本日は多数の傍聴申し込みが見込まれたため、傍聴者の定員を名古屋市教育委員会傍聴規則に定める10人から78人に拡大して受け入れておりますのでご理解のほどお願いいたします。

なお、会議中は、携帯電話等の電源をお切りになるか、マナーモードに設定し、音の出ないようにお願いをいたします。また、録音、撮影についてもご遠慮ください。

本日は、議案が 3 件です。

はじめに、議事運営についてお諮りします。

日程第 3、第 6 号議案「訴えの提起について」につきましては、名古屋市教育委員会会議規則第 6 条第 1 項第 5 号「審査請求及び訴訟に関する事」に該当するため、非公開にて審議したいと思います。

また、会議録につきましても、日程第 3 につきましても、非公開といたしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(各委員)
異議なし。

(坪田教育長)
ご異議なしと認め、そのように取り扱わせていただきます。

(坪田教育長)
それでは、日程第1「請願審査について」を議題といたします。
審議に先立ちまして、請願者から口頭陳述を行いたい旨の申し出がありましたので、会議の運営上5分以内で陳述を許可したいと思います。よろしいでしょうか。

(各委員)
異議なし。

(坪田教育長)
それでは、請願第7号の陳述人の方、入室を許可します。

(坪田教育長)
口頭陳述におきましては、会議の運営上、5分以内で行うようお願いいたします。それでは陳述を始めてください。

【陳述人より口頭陳述が行われた】

(坪田教育長)
以上で、口頭陳述を終了します。陳述人は、ご退室をしてください。

(坪田教育長)
陳述が終わりましたので、事務局からの説明をお願いします。

(東海林総務課長)
請願第7号「中学校公民教科書採択に関する請願」について、ご説明させていただきます。
請願内容は、公民的分野の教科書について育鵬社の採択を求めるものでございます。
令和7年度使用中学校用教科用図書の採択にあたっては、各学校の調査研究報告、調査専門委員会の調査研究報告書、教科書展示会での市民の方のご意見などを参考にいただきながら、教育委員会会議での審議を経て採択されま

す。説明は以上でございます。よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

(坪田教育長)

説明が終わりましたので、ご意見、ご質問があればお願いいたします。

(坪田教育長)

よろしいでしょうか。特にご意見もないようです。

では、請願第7号の取扱いについてであります。教科書の採択につきましては、これから教育委員会で協議していく事項でありますので、「ご意見としてうけたまわる」ということでいかがでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(坪田教育長)

ご異議なしと認め、そのように取り扱わせていただきます。

(坪田教育長)

次に、日程第2「令和7年度使用教科用図書の採択及び採択審議について」を議題といたします。

まず、傍聴の方も含め、ここにおられる皆さまにお願いでございますが、本議題に関しましては、県の指導により、採択結果は8月31日まで非公開となっております。また、採択などに関わる会議録、資料等につきましても、同様の取り扱いとなりますので、その旨ご理解のうえ、本日知り得た内容につきましては、ご配慮いただきますようお願いいたします。

本日は、中学校用教科用図書の社会（地理的分野）、社会（歴史的分野）、社会（公民的分野）、地図、技術・家庭（技術分野）、技術・家庭（家庭分野）の採択を行います。

では、まず社会（地理的分野）の説明をお願いします。着席のままでご発言をしてください。

(森指導主事)

資料3「調査専門委員会 調査研究報告書」の地理のページをご準備ください。地理の発行者は4者です。

まず、観点2「コンパスぷらんと関連」の「自分のペースや方法で学ぶための工夫・配慮」についてです。

日本文教出版の78、79ページをご覧ください。学習の初めに、この「写真で

見る」でアフリカ州のイメージを持ち、80、81ページで自然環境と人々の関わりを大まかに捉えることができるようになっています。次に、82ページをご覧ください。このページの「アフリカの豊かな資源が持つ可能性」を基に、83ページの「節の問いを立てよう」で問いを立てたり、学習の見通しを持たせたりする場面を設けることができるようになっています。次に、東京書籍の92、93ページをご覧ください。「世界の窓」でアフリカについてイメージを持った後、95ページでこの学習を貫く探究課題を立てられるようになっています。さらに、96、97ページ「アフリカの産業における課題」、98、99ページ「発展に向けた課題」で探究課題を追究できるようになっています。

続きまして、観点3(2)「内容の程度」についてです。

東京書籍の78ページ、こちらの右下には「聞かせて！中学生」としてフランスに住む中学生エマさんの話が、83ページ右上には「ケルンに住むトーマスさんの話」が掲載されています。このように日常生活・実社会に関連付けられるような工夫が見られ、生徒の興味・関心を高めることができるようになっています。次に、日本文教出版の65ページをご覧ください。ドイツ気象局で勤めるマツアラキス博士の話が顔写真付きで紹介されています。その地域で暮らす人々の生活や文化を身近に感じることができるよう工夫されています。

続きまして、「各教科固有の追加調査事項」の2「自然災害」については、教育出版の260ページをご覧ください。東北地方の学習の特設ページ「震災の経験を未来に生かす」では、復興について考えることができるようになっています。

その他、各者の特徴について、報告書にまとめさせていただいておりますのでご覧ください。

学校調査会の集計結果につきましては、資料4の地理のページでご確認ください。

最後に市民の声ですが、地理に関しては5通のご意見をいただいております。以上です。

(坪田教育長)

説明が終わりましたので、社会（地理的分野）の採択に関する審議に入ります。ご意見、ご質問があればお願いします。

最初どうでしょう、中谷委員いかがですか。

(中谷委員)

ご説明ありがとうございました。この地理の4者の教科書をあらかじめ拝見して、今改めてご説明をいただいているところですが、こちらの調査研究報告書と、この各学校の学校調査会の結果を先生方及び教科専門の先生方のご意見として、また、市民の皆さんのご意見を踏まえて、それを材料にさせて

いただいて判断するという事なんですけれども、各者色々な工夫があって、強調いただいた辺りの説明というのは、なるほどと納得できるものですが、例えば、デジタル使用に関してですね、何か調査専門委員会の方で、地理というのは、特にデジタルで反映できると情報量が随分増えるのかなというふうに思うんですが、ちょっとその辺りの説明をもう少しいただけるとありがたいんですが。

(森指導主事)

調査研究報告書の観点の4のところにまとめさせていただいております。

まず、中でも東京書籍はほとんどのページに掲載された二次元コードを読み取ることで、章・節ごとに分類された外部ホームページを閲覧することができるようになっています。導入では「導入クリップ」、毎日の学習で「チェック＆トライ」といったものが活用できるというふうに聞いております。また、適宜、動画資料の「D-MOVE」、「なるほど！スキル・アップ」、「雨温図作成ツール」、「用語集ワードチェック」等が活用できるというふうに聞いております。

また、帝国書院ですけれども、裏表紙に記載された二次元コードを読み取ることで、各種コンテンツにアクセスできるようになっています。「学習の見通し」スライド、日本と世界の「統計資料」、ワークシート「アクティブ地理」、「用語解説」、「地域見える化GISジオグラフ」、技能を習得する「図解アニメーション」、「リンク集」といった情報に接続をして、活用することができるということなんです。以上です。

(中谷委員)

はい。ありがとうございました。このあたりのデジタルへの繋がりとかですね、情報の広がりということも一つの観点だなというふうに思って、今の説明の中で少し訳されていたかなというふうに思いましたので、改めてお伺いしました。ありがとうございます。

(坪田教育長)

特に出版社で、今の観点から一番これがということはございますか。

(中谷委員)

各社それぞれの工夫があって、本当に考えられたものであるというところはあるんですけれども、こちらのタブレット端末及び他の観点の総合的な観点から一つ有力な候補としては、例えば、東京書籍さんの内容などは非常に充実したものかなと。例えば、内容の(2)のところでの「聞かせて！中学生」ってのは一貫して記載されていて、中学生の目線でその内容が、関心を持ちやすいと

かですね、あるいはコンパスぷらんの主体的な学びっていうことの可能性を考慮されてるっていうあたりは、評価できる点かなというふうに思いました。

(坪田教育長)

ありがとうございました。

続きまして、じゃあ鎌田委員お願いします。

(鎌田委員)

私も、皆さんこれ本当に素晴らしい教科書を作っていただいたというふうに思っております。それぞれの工夫があってというふうに思います。

結論として、私は東京書籍が良いというふうに思っております。

これ、現在使っている教科書とか、あるいはこの学校調査会、あるいは調査専門委員会の意見とすると一番ではない訳ですけども、日本の最南端の島というのが沖ノ鳥島で、これを領土として守るために色んな工夫を政府がしているということですけども、現状これを放っておくと領土でなくなってしまうかもしれないという危惧は確かにある訳ですけども、ここですら、断定的に、これが水没すると領土でなくなってしまうというふうに書く必要があるのかと。これは、3者がそういうふうな書き方をしておりまして、東京書籍はそういうふうな書き方をしていないということでもあります。これからもう少し温暖化が進んで、太平洋で水没するかもしれない国が出てくる訳ですけども、そうしたら、それは国として領土として認められないのかと、あるいはヨーロッパ、フランスの領土ですら、常時水没してるけれども領土として扱われているところがあるというふうにもテレビで一度紹介されていたことがありました。従ってここですら、今の法律といいますか国際海洋法からいけば、そういうふうに解釈するのが妥当だというふうに思われますけれども、あえてそれで水没したら領土でなくなってしまうと、断定的に書く必要があるかというところは私はそうではないんじゃないかというふうに思います。

従いまして、そういう書き方をしていない東京書籍が良いのではないかと私は思います。以上です。

(坪田教育長)

はい。ありがとうございます。じゃあ続きまして、山本委員お願いします。

(山本委員)

私も同じ東京書籍さんが良いなと思っています。

帝国書院さんもなんですけど、写真がとても魅力的で、東京書籍さん一番上のページのところ、まず勉強っていうよりも興味を持つことが勉強に繋がると思うんですよね。それが一番はじめの巻頭のところで食べ物から入るっていう

ところあたりが、この食べ物はどこのもって番号で出てるんで、こういうところとかすごく良いなと思います。各所の写真もとても綺麗で、生き生きとしてるっていうことと、あと、先ほどおっしゃってたデジタルコンテンツですかね、開いてみるとただ問題が載っているだけではなくって、動画だったり興味を持つような、子ども達が広げていけるような内容になっているかと思います。以上です。

(坪田教育長)

はい。ありがとうございます。

では、栗生委員先にお願いします。

(栗生委員)

ありがとうございます。特に近年は、グローバル人材の育成という観点でも、この地理が中学校の中で非常に注目されているかと思うんですけども、非常にどんどん出版会社さんもビジュアルライズされていて美しいんですけども、結論として、私は東京書籍さんを推薦させていただきます。

理由はですね、中谷委員のお話にもありましたように、やはりデジタル教材、QR読み込んでいただきますと、子ども達がタブレット自宅に持ち帰って自学自習するにも適した教材内容になっておりますし、指導される教員の方と子どもとの対話にも繋がるかなという期待も含めて、東京書籍を推薦させていただきたいと思います。

(坪田教育長)

はい。ありがとうございます。

では最後、水野委員お願いします。

(水野委員)

はい。4冊どちらの図書も内容構成、それから探究心に応えるための工夫それぞれにありまして、率直に感心しているところです。もちろん、コンパスぷらんと関連性から見ても、申し分はないと思います。国の教育振興基本計画、「VUCA」の時代、将来の予測が困難な時代という表現が出てきますけれども、どの教科書も社会の現状・変化を地球規模でとらえる工夫・仕掛けが随所に盛り込まれておりまして、どれも評価できるというふうに思っております。

4者どれも工夫があるわけですが、私は特に日本文教出版と教育出版の工夫を評価したいというふうに思っております。

この日本文教出版の場合は、この生徒同士の対話を促すような仕掛けが、工夫が良いというふうに思っております。例えば、この学び合いのコーナーですとか、議論してみようというコーナーとかですね、こういうところは対話を促

す仕掛けとして工夫があるところだなと思っております。

それから、教育出版の場合は、單元ごとに扉に工夫がありまして、一つは先ほど事務局からも説明がありました学習を見通すための工夫というところなんです。もう一つは、この扉に学習のテーマとともに地球的な課題というものを示しているところ、人口的な問題ですとか、環境問題ですとか、多民族の共存の問題ですとか、そういうところを示しているというところが、一つグローバルな視点で、あっても良いのかなと思ったところです。学習指導要領の中に、社会的事象の地理的な見方・考え方っていうキーワードが出てきますけれども、この扉のページに社会的事象地球規模で捉えることができる工夫がある。それから、地域調査の單元で名古屋が題材になっているというところも、当然評価できるところであろうと思っております。

そして、もう一つ大切な視点が、学校での先生方のご意見だろうというふうに思っております。学校調査会の報告書を踏まえまして、総合的に判断をさせていただくと、私は教育出版を推薦したいというふうに思っております。

(坪田教育長)

はい。ありがとうございます。という皆さまのご意見で、東京書籍を推奨する意見が多く出たと思いますが、最後に水野委員からは、色々な観点を示しながら、教育出版というご意見もありましたので、今水野委員のご意見を聞いて、特に他の委員の方でご意見といいますか、変えられる方いらっしゃいますか。

(坪田教育長)

それでは、もうご議論もないようですので、お諮りしてよろしいでしょうか。それぞれ工夫もあるというご意見もあった中での、でも決めていかなくてはいけないっていうことになります。

それでは、社会（地理的分野）につきましては、東京書籍を採択してよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(坪田教育長)

ご異議なしと認め、そのように取り扱わせていただきます。

(坪田教育長)

続いて、社会（歴史的分野）の説明をお願いします。

(須田指導主事)

資料3「調査専門委員会 調査研究報告書」の歴史をご準備ください。歴史の発行者は9者です。

観点2「コンパスぷらんと関連」についてです。

東京書籍の64、65ページをご覧ください。「みんなでチャレンジ」が他のページにおいても随所に設定されています。また、各章のはじめのページには、章の問いと、章の問いを受けた節の問いが設定されており、それ以降のページには、章と節の問いを受けた1単位時間ごとの学習課題が設定されています。課題解決的な学習に見通しを持つことができるようにしています。教育出版の97ページをご覧ください。どの単元においても、章、節、1単位時間ごとに問いが設定されています。また、節ごとのキーワードを示し、章の学習全体の見通しを立てやすくしています。日本文教出版の102、103ページをご覧ください。章末の「まとめと振り返り」で、段階的な話し合い活動が設定されており、多様な人と学び合うことができるようにしています。

続きまして、「各教科固有の追加調査事項」の1「大戦における日本とアジア諸国を中心とした世界との関わりについて分かりやすく取り扱っているか」についてです。

東京書籍の232、233ページをご覧ください。太平洋戦争における日本の動きや目的について地図や資料を関連させて記載されており、大戦時の中国や韓国などアジア諸国と日本との関係を具体的に捉えることができるようにしています。教育出版の240ページをご覧ください。太平洋戦争の開戦を報じる日米の新聞記事を掲載し、対比できるようにして、世界との関わりで戦争の広がりをつまえることができるようにしています。

次に、事項3「主権者の育成という観点から、民主政治の来歴や人権思想の広がりについて学ぶことができるよう構成されているか」についてです。

教育出版の221ページをご覧ください。フランス人権宣言と水平社宣言とを比較することを促したり、現代までの全人口に占める有権者の割合の変化を記載したりしています。山川出版社の222、223ページをご覧ください。大正デモクラシーについて、民本主義の現代語訳資料や用語解説を掲載しています。

その他、各者の特徴について報告書にまとめさせていただいておりますのでご覧ください。

学校調査会の集計結果につきましては、資料4の歴史のページでご確認ください。

最後に市民の声ですが、歴史に関しては607通のご意見をいただいております。なお、その他メールやファックス等でいただいたご意見も参考としてファイルに綴じさせていただいています。以上です。

(坪田教育長)

説明が終わりましたので、社会（歴史的分野）の採択に関する審議に入ります。ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

では、山本委員お願いします。

(山本委員)

はい。ありがとうございます。皆さんどこの教科書会社さんも色々工夫があると思うんですけども、私は東京書籍さんと教育出版さんはどちらも良いかなと思います。

甲乙付け難いと思ってるんですけど、教育出版さんの方が日本の歴史と海外の歴史とかを結びつけて、書かれている部分が多くて、例えば、章ごとにどちらの教科書も世界の歴史と日本の歴史が載ってるんですけども、小さいところも海外が出てきたときに、日本がどの時代かっていうのがすごく分かるので、それはすごく良いかなと思います。自分が学生で勉強してた時も、私たちの頃は詰め込み学習だったんですけど、部分部分は覚えてその時のテストはいい点取れる。でも、全体の流れが分かってないとか、それが世界とリンクしないとか、そういうことがあったのをすごく覚えているので、このような工夫がされていると、それを常に章ごとにでも見ることができるっていうことは非常に良いんじゃないかと思って、使いやすいのではないかと思います。以上です。

(坪田教育長)

はい。ありがとうございます。東京書籍、教育出版に関するお触れがありました。

次いかがでしょうか、では、鎌田委員お願いします。

(鎌田委員)

私は山川出版社が良いと思います。

理由はですね、第二次大戦といいますか、日米開戦これがいつになるかということなんですけれども、これは日本では12月8日、これは常識ではありますけれども、アメリカの常識は12月7日なんですね。現地時間は12月7日でした。ハワイでも12月7日、ワシントンでも12月7日でありました。先だって先月ですけれども、名古屋市と姉妹都市契約を結んでいるロサンゼルス側の代表者の方とお会いする機会がありまして、アメリカで12月のこれいつですかと、いつどういうふうに教わってますかって聞いたら、7日ですこれ当たり前なんですね。これからその中学生も、例えばアメリカの子ども達と例えばネットで話をするというふうなことがあるかもしれません。その時に、もちろん日米の歴史ってすごく長い訳なんですけれども、戦後の話をする際にその戦争の話に当然なると、いつスタートしたんだって言ったら、アメリカの人は12月

7日と言ひ、日本の人は12月8日だと言う。だからある意味両方とも正しいんですけども、これだけ国際化している時代にあつてですね、正しいのは日本の教科書ですから、12月8日（現地時間12月7日）と書くのが正しいと私は思いますが、12月7日（日本時間12月8日）でもいいんですけども、両方とも記載しないといけないというふうに思います。4年前の教科書で山川出版社だけがですね、これは教科書にはっきりと12月8日、7日というふうに書いてありました。今回は、これが書いてあるのは令和書籍だけです。ただ令和書籍の場合にですね、これは国史という題でありまして、これが中学で日本史と世界史と分けてるというのであつて、その日本人の部分だけですよというのであれば検討は可能だというふうには思いますけれども、これは世界の中における日本というのを考えていく中にあつてですね、海外についての記述が非常に少ない、そういう教科書で果たして良いのかということで、これは除外すると。これなぜ、文科省が認可したのか私はよく理解できません。同じように、この12月8日、7日というものについては、4年前に教育委員会事務局から文科省さんにこれはおかしいんじゃないかと、そういう意見がありますよということを伝えていただきました。しかし、文科省さんからの返事は変えるつもりはありませんと、そういう返事だったというふうに事務局の方から私は聞いております。これは本当におかしいと思います。ぜひですね、再度文科省さんの方に、これは両方とも記載するべきではないかということをお伝えいただきたいと思います。その観点からいきますと、今年の指導用教科書つまり先生が使う教科書ですね、それはまだできてませんから、それはまだ見ておりませんが、4年前の指導用教科書を見ますとですね、山川出版だけがこれが12月8日（日本時間）というふうに書いてあるということがありましてですね、これはバランスが取れてるのではないかと、このことにつきましてですね、いうふうなこともあります。特にこれから国際化していく中にあつて、この時差、昔ある商社、これは三菱商事ですけども、時差は金なりという本を出したことありまして、時差って本当に今大事、考えていかなきゃいけない、海外旅行をするだけじゃなくてですね、それを見ていかなきゃいけないんですけども、これを歴史で学んでいくのにですね、これが記載されてないというのは大きな手落ちではないかというふうに考えます。それを、4年前は教科書本体の中に、山川出版社は書いていました。それを削ってしまったというのはなぜだというふうには思いますけれども。今回もまた指導用教科書の中にそれが出てくるということを期待して、私は山川出版社を推したいと思います。以上です。

（坪田教育長）

はい。ありがとうございます。山川出版社ということですね。

続きまして、では、栗生委員お願いします。

(栗生委員)

すみません。ちょっとまだ山川出版拝見できてないんですけども、教科書の教員の皆さんの使いやすさっていう観点と、やはりお子さんですね学生の立場に立って、興味関心を引きつけられる構成になってるかっていう観点で私見させていただいたんですけども、内容的には教育出版さんの方がやはり先ほどなたか委員の方もおっしゃっていたと思うんですけども、世界と国内両方比較できるという意味で、高校に入ってから日本史世界史が分かれる前の両輪比較しながら、自国と他国の比較文化、あと歴史的背景を見ながら学べるという点で教育出版さんがいいのかなと思います。

ただ一方で、教科書の統一感というところで、先ほど地理で東京書籍さんを推薦させていただいたので、同じ銘柄の方が良いんじゃないかなって大人の観点ではそういうふうと思うんですが、ちょっと個人的なお話ですけど、私の息子15歳に聞いてみたところ、子どもの立場からするとあまり各教科の出版会社が違うことによってレイアウトが違ってくるっていうのは、そんなに気にはならないというふうに彼は申しておりました。

ですので、教育出版さんと東京書籍さんちょっと迷うところですけども、教育出版さんを推薦します。

(坪田教育長)

はい。教育出版ということですね。

では、中谷委員。

(中谷委員)

歴史9者さんから出ている採択教科書について拝見し、調査専門委員会と学校調査会の資料の方もあらかじめ拝見しているところです。そして、市民の皆さんからのこれだけのコメントってのは本当に重いものがあって、色んなお考えがあるんだなという、特にこの教科特性から考えて、我々の、日本の、そして世界の歴史の捉え方っていうのは、未だ一義的に定まっていけないのだと、複数の目があるのだということは、十分認識するべきだということを改めて強く感じました。

そのうえでなんですが、教科書を定めなければいけないということですので、やっぱり相対的に子ども達にきちんと教えるべきものということを偏りなく、統一感をもって行うということが一つ大事なことであらうと思います。歴史の場合は特に、非常に覚える事項が多くて、ややもすると丸暗記のものになりやすいので、やはり構造化されていたりとか、全体像が子ども自身、あるいは先生方が提示して、どこの部分とどこの部分の繋がりのなにかとか、あるいは今ですと他教科との繋がりや社会の中での繋がり、社会科の中での繋がりということも考慮するべきであらうというふうに思います。

そう考えますと、この調査専門委員会の中で書かれておりますコンパスぷらの一つ目ですね。構造化というふうに、中核だけでいいとあるかというふうに思うんですけども、章、節、1単位ごとの構造化がされた設えになっているかどうかという観点の一つ大事であって、それ以外にも、もちろん内容であるとか、デジタルとの繋がりであるとか、造本であるとかっていうあたりかというふうに思いますが、そのあたりで有力だと自分自身が考えたのは、教育出版さん、あるいは東京書籍さんということを考えてました。

いずれも偏りなく近現代史について、あるいは古代からの歴史について述べられている。もちろん、色んな見方はあるかとはいうふうに思いますが、おおよそ合意しうるところで客観的、公正な事実がされているであろうということと、子ども達がそれをもとに色んな自分たちの思考を広げて、学んでいけるような材料があるのではないかというふうに考えるからです。以上です。

各出版社さんの工夫は、本当にもう頭の下がるものだなというふうに思いますが、採択にあたっての意見としてはそういうものであります。

(坪田教育長)

はい。比較的には教育出版、東京書籍の順だということですね。

(中谷委員)

はい。

(坪田教育長)

では、水野委員お願いします。

(水野委員)

いずれの教科書もこだわりとか工夫が伝わってくるところです。特に、表現の工夫だけでなく、学びをサポートするような仕掛けも随所に見られて、どの教科書も良いなというふうに思いました。

取り扱う内容の記述については、教科書によって個性が出るところですけども、一つ思うところは、令和の日本型学校教育を謳って3年が経ちまして、教科書を見ながら答えを指し示す時代ではないということも少し思いながら、教科書を読ませていただきました。仮に、史実に関する意見が二つあるとすれば、可能であれば両論併記ですとか、二つ比較するなどしながら、子ども達の対話を促すというのも、令和型の教育のように感じました。これは学習指導要領にもあります社会的な見方・考え方を働かせるといったキーワードにも通ずるところではないかなというふうに思います。

それから、市民の皆さまのご意見も私の手元に届いたところについては、全て目を通していただきました。それから、調査専門委員会の報告についても、

教科書と対照させながら、全て確認をさせていただきました。当然、学校調査会のご意見、すなわち現場の先生方のご意見も大変重要ですので、全てしっかりと私なりに解釈をしながら読み込ませていただきました。

本当は、私は歴史的分野と地理的分野は互いに関連しながら学んでいくところですので、教科書を揃えることが一定のメリットがあるようにも感じておりましたので、総合的に判断をしながら、本来であれば、私は教育出版というふうに申し上げたかったんですけれども、地理的分野の方が東京書籍になりましたので、そこを今どういう、一緒の方が良いのか分かれても良いのかってところをまだちょっと決めかねてですね、今、一生懸命この2者を読み比べていたというところでございます。中途半端ですみません。

(坪田教育長)

ありがとうございます。出てきたご意見からすると、東京書籍、教育出版、山川出版にもう絞られた中で、より子ども達にとって、あるいは先生にとって教えやすい、子どもにとって学びやすいものはどれかということになりますが、鎌田委員からも山川出版の貴重なご意見、こういう時差とか暦の違いとか様々なこと非常にこれから世界中色々と繋がっていくみたいな大事な観点をお示しいただいたかなと思いますが、全般的には東京書籍か教育出版、そして、この地理分野が先に決まりましたので、ここの連動性、だけど栗生委員からは、ユーザーのご意見として、そう違ってもというご意見もありましたが、どうなんでしょうね。そこはちょっと感じ方や、もし、教える立場でも少しご経験がある山本委員、今のこの地理との教科書の連動性を考えたりする中ではどうなんでしょう。

(山本委員)

私小学校だったのであれですけど、子どもの目線からすると別教科っていうふうに思ってるんじゃないかなと思います。だから、別に大丈夫じゃないかと思うんですけど。

(坪田教育長)

分かりました。

山本委員、一番最初で東京書籍と教育出版の順に挙げられたんですけど。

(山本委員)

反対です。

(坪田教育長)

教育出版、東京書籍の順ですか、なるほど。

結果、教育出版の方のご提示があったのがお三方だったかな。で、迷われているのが水野委員でありましたけど、どうですか今のを受けて。

(水野委員)

はい。現場の先生方のことを思うと本当にどうなのかなっていう、様々に思うところはあるんですけども、子どもの学び方を見ている、やはり社会科という科目の中で地理的分野と歴史的分野を往来していくので、それぞれ別の科目というよりも関連性も出せるということで一定価値があるのかなというふうにも思ったりしていました。ただ、全国的な傾向もこの際全国見てみたんですけども、両者揃っているところもそんなに多くはないと。別々のところもいくらかあるということも事実なものですから、どちらも捨てがたいんですが、私も教育出版で良いと思います。

(坪田教育長)

分かりました。ありがとうございます。

では、中谷委員。

(中谷委員)

地理と歴史を揃えるかという話は、もちろん観点の一つではあると思われますけど、やはり一にも二にも重要なのは内容であって、それがその観点も含み入れて、共通する点もあるという評価になるならそれでいいと思うんですけど、まあ内容的に見ていかがかということで、そうでないと教科ごとの採択をする理由がないということでもありますので、もちろん観点ではあるけれどもそれは一つの材料、評価点であるということで、私の判断としては同じという形です。構造化の観点で、教育出版、東京書籍となります。

(坪田教育長)

はい。分かりました。それでは、結論としてお諮りしたいと思います。

鎌田委員申し訳ございませんが、全体の意見を総合すると。

(鎌田委員)

よろしいですか。

(坪田教育長)

はい。では、その前に鎌田委員ご発言どうぞ。

(鎌田委員)

教育出版も東京書籍もですね、先ほどの観点からいきますと、米国の現地の

新聞が掲載されてまして、これは非常に良いことなんですよ。ただ、全然説明にならない。あるいは日本の新聞が出ている教科書でもですね、9日の新聞がでているんですね。要は日本の開戦の時に、宣戦布告が間に合ったか間に合わなかったかというような論点もある訳でして、そういう観点からも、一体いつ真珠湾攻撃があったんだということについてはですね、正確な把握、正確な知識、それを持っていないといけない。本来はこんなことで時間を取られるのではなくて、別の観点で議論すべきなんですよ。しかし、これは大事なことでありましてですね、例えば、私は今外食業界に身を置いておりますけども、外食店舗を出すときに必要なのは調理師免許じゃないんですね。おいしいものを作る必要は全然ないんです。いかに安全な、安全と言いますか、火元が安全とか、衛生、この二つを講習受けて認可されればですね、あとはそのお店が流行るかどうかというのは腕次第ということで、別にそれはどうでもいいんだというふうなことでありまして、このやはり欠けてはいけない観点というものがあるものですから、私は次の教育出版であれ東京書籍であれ良いんですけども、ただ、私は山川を残して、今回は山川出版社を含め、全教科書会社がですね、12月7日、8日この点について明らかにしていただけるように期待するために、私1人反対という形で記載していただければというふうに思います。以上です。

(坪田教育長)

はい。分かりました。今の貴重なご意見もきちんと踏まえて、我々これから、教科書も大事ですけども、授業全般のそういうことについて配慮していく必要もあるのかなというふうに思います。

(鎌田委員)

すみません。もう一点よろしいですか。

(坪田教育長)

はい。どうぞ。

(鎌田委員)

先ほどこちっとお願いしましたんですけども、この7日、8日の点につきましてはですね、再度教育委員会事務局から文科省さんの方に申し入れをしていただきたいというふうに思いますがいかがでしょうか。

(坪田教育長)

事務局いかがですか。

(小島義務教育課長)

申し入れをさせていただきます。

(鎌田委員)

はい。ありがとうございます。

(坪田教育長)

それでは、そのようなご意見でございましたが、社会（歴史的分野）につきましては、教育出版を採択してよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(坪田教育長)

ご異議なしと認め、そのように取り扱わせていただきます。

(坪田教育長)

続いて、社会（公民的分野）の説明をお願いします。

(中村指導主事)

資料3「調査専門委員会 調査研究報告書」の公民をご準備ください。公民の発行者は6者です。

まず、観点2「コンパスぷらんと関連」においては、「自分に合ったペースや方法で学ぶ」「多様な人と学び合う」といった着眼点に関して、東京書籍が、53ページ「みんなでチャレンジ」で、インクルージョンについて考えよう、という現代的な課題を取り上げています。対話的な学習場面を設けることで課題を解決し、72ページ「深めよう」で、思考ツールを用いて学習をまとめることができるようになっています。また、教育出版は、45ページ憲法の三つの基本原理の資料にあるような「見方・考え方」のマークを示し、その章で意識させたい事柄を問い掛けることで、「深い学び」を支援する工夫が見られます。

続きまして、観点3(1)「内容の選択」では、日本文教出版が、54ページ「共生社会をめざして」で、男女共同参画社会や性の多様性など、自他を大切にする心や平等・生命尊重の精神を養うことができる教材を取り入れています。また、教育出版は、52、53ページ「ともに生きる社会の実現」で、男女の平等や障害のある人の立場に着目させ、より良い社会のあり方を様々な立場から考えていく内容を取り上げています。

続きまして、「各教科固有の追加調査事項」の1「世界平和を確立するための熱意や協力への意欲を高めることができるよう配慮されているか」については、東京書籍が、204、205ページで地雷の被害にあった子どもと、NGOに

よる地雷除去作業の写真資料などを掲載し、「平和の実現のためには、国際協調による様々な取組が必要」と記述することで、紛争の被害や国際貢献について考える意欲を高めることができるよう配慮しています。また、日本文教出版は、209 ページに「日本政府が国際連合に設置した人間の安全保障基金」の紹介や関連する資料を掲載し、日本の国際的な役割について考える意欲を高めるようにしています。

その他、各者の特徴について報告書にまとめさせていただいておりますので、ご覧ください。

学校調査会の集計結果につきましては、資料 4 の公民のページでご確認ください。

最後に市民の声ですが、公民については 182 通のご意見をいただいております。なお、その他メールやファックス等でいただいたご意見も参考としてファイルに綴じさせていただきました。以上です。

(坪田教育長)

説明が終わりましたので、社会（公民的分野）の採択に関する審議に入ります。ご意見、ご質問がありましたらお願いします。

では、最初は水野委員よろしいですか。

(水野委員)

全般的に思っていることは、やはり先ほども申し上げましたけれども、両論併記というところについてです。事実とともに考え方や意見が複数存在する場合には、それを併記することができるならば好ましいのではないかなというふうに思います。

そして、公民とは、社会の仕組みだけでなく、私たちの暮らしや生き方について学ぶ教科でもありますので、今日の社会を学ぶだけでなく、未来社会についても学んでいくことになります。

ですので、例えば、社会保障のあり方というような、答えが一つに限らない問いにも向き合っていく訳ですけれども、現在は少子高齢社会ですし、将来の予測が困難な時代ですので、当然教科書に正解は書いてありません。自ら問いを立てて、情報収集をして、みんなで意見を出し合うというような、この学びのコンパスにある探究の姿勢はこういうところにも適応できたら良いのではないかなと思っています。

この学びの姿勢の観点で言いますと、各社表現方法は異なるんですけども、私的には 3 者絞り込みまして、教育出版と東京書籍、それから日本文教出版が、表現を工夫しているように思っております。

一旦ここまででよろしいでしょうか。

(坪田教育長)

はい。ありがとうございます。

次にご発言をいただけるのは、では、鎌田委員お願いします。

(鎌田委員)

私は東京書籍が良いと思います。本来、学習指導要領からいきますとですね、公民というのは、公共・倫理・政治経済、この三つの分野についてということだと思ってしまうんですけども、その中で公共ではですね、本来国がやるべきこと、あるいは政治経済、これ本来国がやるべきことは何かって言いますと、私が考えておりますのは三つ。国防、そして人口を増やすこと、そして生産性を向上させること、これが国を栄えさせることだと思っております。それについて、満足に書かれてる教科書は、私の目からは見当たらないということにはなりました。しかし、色んな工夫がされてることも事実であります。そうした中で、もう一つですね、別の観点から見ていきますと、災害時の対策ということがありまして、これは大体どこの教科書も2ページなんですけれども、ここだけ4ページですかありましてですね、後でもう一度発言させてください。すみません。

(坪田教育長)

はい。またご発言いただければと思います。

次いかがでしょうか、山本委員いかがでしょうか。

(山本委員)

ありがとうございます。私は、東京書籍さんと教育出版さんが良いかなと思っております。でも、日本文教出版さんの写真がすごく良いな、目を引くものが多いとは思っています。東京書籍さんの地雷除去の場面とか、義足の男の子が一生懸命歩こうとしているところとか、やはり視覚からこうであってはいけないっていう部分を子ども達に、ちょっとショッキングではあるかもしれないんですけども、子ども達に訴えることができているのが良いと思いました。以上です。

(坪田教育長)

はい。ありがとうございます。

では、鎌田委員お願いします。

(鎌田委員)

すみません。自分、ノートのページを見間違えておりまして、申し訳ありません。

東京書籍ですけれども、他のところが2ページ、東京書籍が4ページといいますのは、少子高齢化についてでありまして、これは財政についても、このままいきますと財政も大変ですよというようなことも記載されてるというようなことで4ページありまして、本来であれば、今、合計特殊出生率が1.2ということですが、OECD38か国ありますが、フランスが2に近かったり、何とか2を目指そうなんてふうな時代が日本にもありましたけれども、38か国の中で一番上というのはですね、3の国があるんですね。これはイスラエルです。もちろん全世界で見るとアフリカで5とか6もあるんですけども、OECD、その先進国の中で一番上はですね、3の国があります。例えば、そういうようなこともですね、本当はもっともっと書いていただきたいし、なんですけれども、いずれにしてもこの少子高齢化について、4ページ割いているということは、努力を多としたいというふうに私は思います。以上です。

(坪田教育長)

はい。ありがとうございます。東京書籍がということですね。

では、栗生委員お願いします。

(栗生委員)

最近、公民とか歴史とかって、興味のあるお子さんとそうじゃないお子さんで、随分学びに対する姿勢って違うのかなっていうふうに感じていたんですが、教科書を拝見すると非常に興味深くお子さんでも、お子さんって言っても中学生ですが、中学生がしっかり興味を持てるようになってきているかなということを感じました。

私は、LGBTQの観点と情報化社会っていう観点で拝見してありまして、やはり、政治的なお話もそうですし、国際問題取り扱うにしても、今インターネットの情報が子ども達も身近にするものだと思うんですが、情報を正しく、事実と解釈が別なんだっていうところを理解するためにも、あと正解不正解だけの世界ではないといったところを、うまく網羅的に表現してくださっているのが、日本文教出版さんかなと。

一方で、やはりその他のページ拝見すると、学びのコンパスの観点でいうと、東京書籍さんがしっかり構成的にも内容的にも、実社会と公民の内容を上手く捉えてらっしゃるので、東京書籍さんかなということで、ちょっと悩んでおります。ただ、私の専門的なIT・AIの観点で言いますと、非常に良く現代社会や、最新技術動向も入れていただいているのが日本文教出版さんかなということで、ちょっと今迷っております。

(坪田教育長)

ありがとうございます。迷いの途中ではありますが、2者の名前が出てま

いました。

では、中谷委員お願いします。

(中谷委員)

6 者から出ている教科書を拝見して、色々考えましたけれども、やはり情報の構造化ということと、それと公民ということで考えると、例えば、構成と効率とかですね、各者使われているところがやっぱり、今こういうネット社会、誰でもがこう発言できるようなところで、どういうふうに公正さというのを保つのかということに興味深く書いてあるところなんです。一つ内容的に重要なところを踏まえておられるかなというふうに考えましたのは、東京書籍さんが一つ。もう一つは、教育出版さんというところ。日本文教出版さんも、特にグラフィカルで、魅力ある人権であるとか、国際関係であるとかについても触れているというふうに思います。特に端的な例で言いますと、東京書籍さんの場合はこの扉絵のところにこのウクライナの戦争、侵略戦争のことが書かれていまして、そういうことをきちんと世界の情勢というのを子どもの方がむしろ、こういった公民的な分野に関しては、ニュースに晒されているだけに、リアリティをもう既に感じていて、大人がそれを教科書でどう教えているかということさえも敏感に感じているところだと思うので、そういうことをきちんと考えさせるという姿勢が一番現れているというふうには思います。

一方で、教育出版さんはバランス良く各観点、司法であるとか、家計、家庭経済のことについても触れていて、すごく充実してるなというふうに思いましたんで、その2 者さんかなというところを考えています。

(坪田教育長)

もう一度、出版社名は順番で言うとうどうなりますか。

(中谷委員)

東京書籍と教育出版ですね。

(坪田教育長)

東京書籍が一番で、教育出版という順ですね。

(中谷委員)

はい。

(坪田教育長)

ということでひと通り出てきまして、東京書籍、教育出版、日本文教出版という3 者の名前が皆さまから出てきました。

栗生委員、先ほど迷われている途中というのがありましたけど、今全体、中谷委員の話まで聞いたところでどちらがというのはございますか。

(栗生委員)

そうですね。国際関係や政治、社会学っていう観点では、中谷委員のお話を受けて東京書籍さんがまとまっているなと思います。私ちょっと主観的に、情報技術とヘイトスピーチのところとかも上手く解釈とネットの情報の使い方の正し方みたいなので、日本文教さんが良いなと思ったんですが、これは多分他の道徳とか情報とか他の教科書の中でも、ネットリテラシーと情報セキュリティのお話があるので、そちらでもし網羅できていればという期待もできました。

(坪田教育長)

ありがとうございます。では、ちょっとまとまりつつあると思います。この公民の分野自体は、18歳選挙になってからもう8年くらいですかね、18歳成人になってから、2020年でしたから2年ちょっとが経つということで、これ中学生にとっても高校生の問題じゃなくって、2年間近づいた訳なので、本当に中学校のうちにしっかり学ぶべき大事な教科だなと。でも、教科書だけではなくて、まさにN I E、新聞を使って読み比べをしながら学ぶっていうそういうことも一番必要な教科は多分、公民的な分野だと思うので、そういう教育を進めなくてはいけないなということも教科書の話とは別ですけど、感じさせていたでいてるところです。ということで、特に追加的なご意見ありますか。

(坪田教育長)

では、もう私の中では皆さんのご意見が総合化した感じになりましたので、ご意見を伺いたいと思います。

それでは、社会（公民的分野）につきましては、東京書籍を採択してよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(坪田教育長)

ご異議なしと認め、そのように取り扱わせていただきます。

(坪田教育長)

それでは、次は地図の説明をお願いします。

(廣瀬指導主事)

資料3「調査専門委員会 調査研究報告書」の地図をご準備ください。地図の発行者は2者です。

まず、観点2「コンパスぷらんと関連」の「夢中で探究するための工夫・配慮」についてです。

両者ともに、課題の提示やデジタルコンテンツの活用により、生徒が主体的に自分のペースで学ぶことが出来る工夫がされています。東京書籍の7ページをご覧ください。「Bee's eye」という課題を配し、また、各所に難易度を変えてこの課題を提示することで、生徒が自律して考えたり、協働して学んだりすることができるように工夫されています。帝国書院の31ページをご覧ください。各種地図や資料の大きさや位置を揃えるなど、生徒が必要な情報を活用しやすくする工夫がされています。また、「地図で発見！」の課題など、生徒が自律して学べるような工夫がされています。

続きまして、観点3(1)「内容の選択」についてです。

両者ともに、地図や資料の種類や提示方法など、資料活用の技能が高められる工夫がされています。帝国書院は、地域の姿を具体的・視覚的に捉えることができるような鳥瞰図や絵図を各所に盛り込んでいます。109ページにおいては、近畿地方の地図や歴史、115ページにおいては、近畿地方の産業などに関わる地図を見やすく配置し、地域相互の繋がりや多様な情報を整理しやすくする工夫がされています。また、157ページにおいては、日本の季節風の向きを図示し、生活に影響を与える気候の特徴をとらえやすくしています。

続きまして、「各教科固有の追加調査事項」の1「日本国土の位置や領域について分かりやすく取り扱っているか」については、帝国書院の巻末をご覧ください。「日本の領土とその周りの国ぐに」として、掲載しています。日本の領域と周辺の国ぐに、日本の東西南北端の写真、排他的経済水域が記されており、領域がつかみやすいよう構成されています。また、領土・領海・領空の範囲に関する絵図も示されています。

その他、各者の特徴について報告書にまとめさせていただいておりますのでご覧ください。

学校調査会の集計結果につきましては、資料4の地図のページでご確認ください。

最後に市民の声ですが、地図に関して、具体的な意見、感想が述べられたものはございませんでした。以上で、地図の報告を終わります。

(坪田教育長)

説明が終わりましたので、地図の採択に関する審議に入ります。ご意見、ご質問がありましたらお願いします。

では、今回は最初栗生委員からお願いします。

(栗生委員)

ちょうど自宅に、この教科書に近いものが、帝国書院さんのものがあるので、私からするとちょっと馴染みがあるというかなんですけれども、結論から申し上げると帝国書院さんを推薦させていただきたいです。

1 ページの中に色んな各地域ごとの比較がなされていたりとか、観点ごと例えば地球温暖化であったり、名物だったりという地政学的にも、その分野ごとに比較しながら学べるという点で非常にこれ、興味深く拝見しています。実はこれ、大学の授業でも非常に使いやすいなということで、大学生がレポート書くときなんか、ある観点で比較したりとかするんですけども、構成的にも良い、非常に良くまとまっている教科書だなということで、帝国書院さんを推薦します。

(坪田教育長)

はい。ありがとうございます。

続いて、では、中谷委員をお願いします。

(中谷委員)

はい。ありがとうございます。帝国書院さんと東京書籍さん、それぞれ見比べさせていただきましたけれども、帝国書院さんについては、調査専門委員会と学校調査会で、やはり肯定的な意見が明瞭に多いということもありまして、私もそれに賛同するものです。

やはりこの教科書、地図を作ってきた蓄積というのがあるということが、この色んな形の地図、そういう商業地域であるとか、かと思えば国であるとか、領海であるとか領空であるとか、そういったことなどが非常に分かりやすく、それこそ大学生でも使えるぐらい有用性の高いものであると。それで、例示していただいた近畿地方の地図がすごく分かりやすいなと思う一方で、中部地方がこうであるとなお良かったというか、これは帝国書院さんに求めたいところですけど、私関西に住んでいましたので、やはりよく分かるなと思いながら見てましたんで、できれば各地方についてもそんなことがあるとありがたいかなとは思いましたが、いずれにせよ内容が非常に充実しているということはあるのかなというふうに考えました。

(坪田教育長)

なるほど、確かにそうですね。ありがとうございます。

では、山本委員をお願いします。

(山本委員)

私も、帝国書院さんが良いのではないかと思います。

理由は、専門委員の方も、教員の方も圧倒的にこちらが良いと言っているしやるってということもありますし、どの資料を見せていただいても、両方とも同じようなことが書かれているんですが、とても見やすいという、分かりやすいという点で、帝国書院さんの方が良いのではないかと思います。そして、資料の多さも帝国書院さんが多いのではないかと考えます。以上です。

(坪田教育長)

はい。ありがとうございます。

では、水野委員いかがでしょうか。

(水野委員)

最新の地図はインターネットでいつでも閲覧できる時代ですので、ただ、この地図帳を見るとやっぱりワクワクしますし、探究心をそそられるというところだと思います。

どちらの地図帳も探究心に応えるための工夫は十分かというふうに思っているんですが、事務局のご説明にもありましたとおり、東京書籍の「Bee's eye」この3匹の蜂ですとか、帝国書院の「地図で発見！」ってところは私もチェックしてまして、非常に興味深く拝見しておりました。

二つありまして、一つは、統計資料については、それぞれ取り扱う内容が異なりますので、一概に比較はできないというふうに思っているんですけども、ただ、それぞれデータを一つずつ丁寧に比較していきますと、出典元のデータが帝国書院の方が比較的新しいように思います。

それから、やはりこれだけ膨大な情報を含めておりますので、検索、インデックス、索引の見やすさっていうところ非常に重要かというふうに思いまして、索引の情報件数を比較したところ、帝国書院の方が多く含まれておりました。

学校調査会の報告も踏まえながら、総合的に判断をさせていただきますと、帝国書院が良いのではないかと思います。以上です。

(坪田教育長)

ありがとうございます。

では、鎌田委員お願いします。

(鎌田委員)

私も帝国書院が良いと思います。本来であればいいですか、これ二つの調査会の推薦といいますか、もう評価が一番高いということで、懸念されるところは、地理と違うということである訳ですけども、地理が東京書籍、従って同じ方が良いかというふうにも思えるところがあるんですが、現状も別々の教科書を使っているというふうなことがありますね、必ずしもそれに拘泥され

る必要ないんだらうなというふうに思います。従いまして、帝国書院でいいんじゃないかというふうに思います。

(坪田教育長)

ありがとうございます。私もちょっと確認しようと思っていたのが、地理の時間くらいなんですよ、二つの教科書を並べて使うってことで、先ほどの歴史よりももっと近い関係でありますけれども、ただ、総合的評価で皆さんもお触れになられたように帝国書院の方が充実しているという話でございますので、ここは意見が分かれていないということで、お尋ねしたいと思います。

それでは、地図については、帝国書院を採択してよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(坪田教育長)

ご異議なしと認め、そのように取り扱わせていただきます。

(坪田教育長)

続いて、技術・家庭（技術分野）の説明をお願いします。

(村瀬指導主事)

資料3「調査専門委員会 調査研究報告書」の技術をご準備ください。技術の発行者は3者です。

まず、観点2「コンパスぷらんと関連」の「多様な人々と学び合うための工夫・配慮」についてです。

東京書籍の72、73ページをご覧ください。「あったらいいなを形にしよう」のように、仲間との話し合いを通して課題を解決する構成となっています。次に、開隆堂の14、15ページをご覧ください。「技術分野の学習の流れ」のように、様々な人との話し合いや検討を通して課題を解決することを示しています。

続きまして、「各教科固有の追加調査事項」の1「技術の見方・考え方をふまえた内容になっているか」についてです。

東京書籍の107ページをご覧ください。フィッシュボーンによる思考ツールを通して、「経済性」「社会からの要求」「安全性」「環境への負荷」といった技術の見方・考え方を身に付けられるように工夫しています。次に、開隆堂の151ページをご覧ください。「問題解決の過程と生物育成の技術の見方・考え方」のように、具体的な事例を基に問題解決の過程が示されており、生徒の理解を深められる工夫をしています。

続きまして、事項3「生活や社会に関する問題を解決する内容になっている

か」についてです。

東京書籍の168、169ページをご覧ください。「問題の発見と課題の設定」ように、問題解決の基本的な手順と具体例が示されています。次のページ以降も、基本的な手順に沿って具体例が展開されていきます。段階ごとに、見開きページでまとめられていたり、生徒のつまずきを考慮して補足が入れられたりするなど、自力解決を補助する構成・内容となっています。次に、教育図書の138、139ページをご覧ください。「問題を解決する流れを考えよう」のように、基本的な手順を提示し、次のページからは容易に取り組める具体例が多く取り上げられています。

その他、各者の特徴について報告書にまとめさせていただいておりますのでご覧ください。

学校調査会の集計結果につきましては、資料4の技術のページでご確認ください。

最後に市民の声ですが、技術に関しては1通のご意見をいただいております。以上です。

(坪田教育長)

説明が終わりましたので、技術・家庭（技術分野）の採択に関する審議に入ります。ご意見、ご質問があればお願いいたします。

では、水野委員お願いします。

(水野委員)

私は、東京書籍を推薦したいと思います。探究的な学びをサポートするための工夫はそれぞれの図書に見られるんですけども、特に東京書籍のデジタルコンテンツ、思考ツールですとか、資料、図鑑など、子ども達も楽しみながら利用できるのではないかなというふうに思いながら拝見いたしました。

それから、東京書籍の冒頭のところで、技術分野の学習方法を示しているんですけども、例示している思考ツールを、やはり本編のところ、先ほど事務局のご説明でもフィッシュボーンの構造化のご説明いただきましたけれども、本編でも使いながら、具体的に思考プロセスを明らかにするというところは、非常に面白いなと思いながら読み進めておりました。

それから、各編の扉のページに、問題発見と課題の設定というコーナー、これ先ほどご説明いただきましたけれども、省エネルギーに貢献するための問題解決ですとか、生活・健康・安全を意識した製品を開発しよう、ウェルビーイングを高めるための問題解決ですとか、この技術分野の見方・考え方を働かせることっていうキーワードがありますけども、社会の役に立つということを、実感を子ども達が持てるという仕掛けがとても良いなと思いますので、東京書籍を推薦したいと思います。

(坪田教育長)

はい。ありがとうございます。

続きまして、鎌田委員お願いします。

(鎌田委員)

私は開隆堂でいかがかというふうに思います。これ二つの調査会がそれぞれ一番が東京書籍、二番が開隆堂ということになっています。それぞれ基本的に尊重したいというふうに思うんですけれども、元々技術・家庭科っていうのは、私が中学校のころは同じ教科書にあったんですね。分かれてるから当然別々で良いんだろうと思うんですけれども、現在は、両方とも東京書籍ということでありまして、これやはり一つの教科書会社が作ったものの方が教えやすいということがあるのであれば、そういうふうに想像される訳ですけれども、家庭分野では私は開隆堂が良いというふうに思ってるものですから、それで開隆堂を推したいというふうに思った訳です。

その理由といいますのは、これ今の直接の話ではないんですけれども、この開隆堂の方は、この災害のページというのが10ページありましてですね、他の二つの教科書会社が4ページのところ、これからいつ南海トラフっていう大きな問題が起こるかもしれない。今年になっても大きな災害が起こったというようなときにですね、どういうふうに対応していくんだというようなことについて、詳しく書かれてるというふうなこと、これ非常に大事なことじゃないかというふうに思う訳であります。従って、それと連動するといいますか、同じ括弧で括れるというようなことなのであれば、この開隆堂の方が良いんだろうというふうに思ったので、こちらを推したいというふうに思う訳です。以上です。

(坪田教育長)

はい。ありがとうございます。開隆堂を推すということでございました。

続きまして、栗生委員お願いします。

(栗生委員)

私も開隆堂さんを推薦させていただきます。先ほどの公民のところでもお話したんですけれども、高校に入ると情報技術、今普通科高校でも高校1年生からPythonの授業が入ってきて、コンピューターサイエンスやコンピューターアナリティクスといった分野が入ってきています。共通テストでも情報の分野が出ると思うんですけれども、拝見しますとこの開隆堂さんは、プログラミングの部分もちろんなんですが、情報セキュリティのところもしっかり、あとコンピューターの歴史、ハードウェアとソフトウェアが両方体系的に学べるような内容になってます。あと、今後AIが進化して、より日本のものづく

りの手仕事みたいなところでいうと、もちろんCADというコンピューターを使って製図をしていくんですけども、この立体把握やものづくりといったところも網羅されているのが開隆堂さん、実社会に近い内容のものかなというふうに感じて開隆堂さんを推薦させていただきます。

迷った東京書籍さんは、やはりデジタル教材との連携が非常に良くできているので、惜しいところではあるんですけども、最新のテクノロジーと実社会に近い技術という意味でこの開隆堂さんを推薦したいです。以上です。

(坪田教育長)

なるほど、分かりました。

続きまして、山本委員お願いします。

(山本委員)

私は東京書籍さんと思っていたんですけど、問題解決とか、自分達で問題を発見しようとか、課題を設定しようとか、コンパスぷらんに則ったところがよく出ているかなというふうに思って、東京書籍さんを推薦しようと思ったんですけど、今栗生委員のお話を聞いて、それもそうだなというふうに思い、迷ってしまってます。

(坪田教育長)

分かりました。

では、中谷委員お願いします。

(中谷委員)

技術・家庭科3者から出ている教科書を拝見して、内容それぞれやっぱ良いところがあって、特に開隆堂さんのこの最新のテクノロジーに関するとかです、かなり見やすく作ってあるなと思う一方で、教科書として体系的に構成されていて、学びやすさ教えやすさという観点ではどうかという、東京書籍さんにちょっと一歩分があるかなというところです。

一つは、教授内容がある程度量が担保されていて、かつ選べる、その中でこの部分をどういうふうを選ぶのか、そしてそれを、例えば、この未来のテクノロジーというところでまとめていくっていうところが明示されているっていうことがあります、栗生委員言われたようなPythonとか、そういうプログラムの話とかがすごく身近だし、これから必須になってくるっていうのは、全くそのとおりであるなというふうに改めて意識したんですけど、教科書として学んでいくときに、やはり単元の系統化であるとか、その中で子ども達の頭の中にどういう知識であったり、概念構造ができていくといいのかっていうことを意識して作られているという意味では、やはりご経験もそうですし、デ

デジタルの部分での充実もそうですが、東京書籍さんが充実しているという考えを持ってまして、教科書や内容が多いほど良いとは全然私は思わないんですけど、ただその現場の先生方が選んで選択できる、難しいことがどんどん増えていくと、それこそ情報の教科化とか、結局どんどんこう全部盛りになってきているカリキュラムの中で、選ばれるのは先生方ですので、先生方が重要だと思うところを選択できる、そういう構造になっているかどうかという意味で言うと、東京書籍さんを評価したいという、推薦させていただくという考えです。

（栗生委員）

その観点で、中谷委員からの観点で拝見すると、確かにこの開隆堂さんの書籍は、これ高校の技術でも十分学べる構造になっていますね。女子の理系離れを防ぐのであれば、なんとなく私は技術家庭13歳の時に、はんだ付けでコンピューターを作った授業が自分の原点なんですけれども、非常にそれが楽しくて、このIT分野に入っているんですけども、でも、中学校1年生、2年生の子たちが見る教科書という観点でいうと、確かにおっしゃるとおり東京書籍さんかな。内容の先端と実社会に近いって意味では開隆堂さんですけども、非常にちょっと迷っていますというコメントでございます。

（坪田教育長）

というご意見ですが、水野委員お願いします。

（水野委員）

ちょっと気になりまして、今学習指導要領の技術分野の新旧内容項目の一覧を比較してみたんですが、平成29年の告示でDの項目に情報の技術というところが新しく入ってきているんですけども、具体的にこのプログラミング言語で、というところまでは網羅されておらずおっしゃるように、恐らく中学校以降の学習領域に入ってきているのかなというふうに見受けました。ひと通りD情報の技術については網羅できておりますので、その点に関しては東京書籍でも差し支えないのかなというふうに思いました。

（坪田教育長）

はい。ありがとうございます。割れているような、割れていないような状況ですけど、鎌田委員いかがでしょうか。

（鎌田委員）

私も単純に、単体で選ぶのであれば東京書籍だというふうに思ってるんですけども、例えばそのSociety5.0とかですね、右上に全ページにQRコードが書いてあるとかですね、これ非常に使いやすいと思うんですね。ただ、その

家庭分野と一緒にじゃなくていいんだろかというふうに考えたときの意見でありまして、分かれても構わないということだろうというふうに思いますので、この技術家庭について東京書籍を選ぶことに異議はありません。

(坪田教育長)

分かりました。すみません皆さん、寄せていつていただいて申し訳ないですけども、それぞれのご意見ごもつともで、栗生委員が言われたように開隆堂さんののは高校の教科書と言っても良いぐらい深い内容も入っているし、細かい実用的な内容も含まれているし、これはこれで優れているなどあるし、あと教科書として中学校段階で先生が教えていくことには、東京書籍がまとまっているというような皆さんのご意見だった気がします。

そういう意味で非常に大事な教科で、我々が習った時と全く様子を異にしているのがこの教科じゃないかなという。昔は、金工と木工が中心となっていました。今はもう完全に情報とかですね、様々な実社会の話とか、生産とか生物育成とか、色んな社会、理科の内容まで含んだようなすごい教科に変わってきているんだなということをまた目の当たりにして考えさせられますが、高校との連動とかそういうことを意識しながら。

ということで、少し皆さん迷われてる部分があるように思いますが、一つということになりますので、ご意見を聞きたいと思います。

それでは、技術・家庭（技術分野）につきましては、東京書籍を採択してよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(坪田教育長)

ご異議なしと認め、そのように取り扱わせていただきます。

(坪田教育長)

続いて、技術・家庭（家庭分野）の説明をお願いします。

(一ノ瀬指導主事)

資料3「調査専門委員会 調査研究報告書」の家庭をご準備ください。家庭の発行者は3者です。

まず、観点2「コンパスぷらんと関連」についてです。

東京書籍78ページをご覧ください。個に応じて実践的・体験的な学習活動が行えるよう、実習の題材について多種類の事例を取り入れています。64ページをご覧ください。基本的な技能については、このページから始まる「いつも確

かめよう」にまとめられています。また、全てのページの右上に二次元コードが掲載されています。動画やシミュレーションといった資料を教科書と連動して活用できるようになっており、興味・関心のある内容は自分のペースで確認できるような工夫がされています。教育図書86ページをご覧ください。各学習の前に「見つめる」として、興味を抱きやすい写真や1コママンガが掲載され、関心をもって学習できるよう配慮されています。

観点3(1)「内容の選択」についてです。

開隆堂6、7ページをご覧ください。自分事として、家庭生活・地域・社会に関心を持ち、問題を見つけて解決に努め、生活に生かす力を身に付ける内容が選択されています。130ページの実習題材では、科学的根拠による記述で、納得・理解したうえで実習が進められるように工夫がされています。その他の実習題材のページでも同様の工夫がされています。

続きまして、「各教科固有の追加調査事項」の2「日本の生活文化に関する学習活動の充実が図られているか」についてです。

教育図書口絵3～口絵8までの「年中行事と私たちの暮らしとつながり」をご覧ください。日本の伝統的な年中行事と行事食、行事食に込められた願いなどがイラストや写真で示されており、生徒の興味・関心の幅が広がる工夫がされています。

事項3「消費生活や環境に配慮したライフスタイルの確立の基礎となる内容の充実が図られているか」についてです。

東京書籍198ページの消費支出における割合のグラフや、203ページの消費生活センターに寄せられた中学生に多い相談事項の資料など、様々な資料や事例が、グラフやイラスト、漫画で取り上げられています。そして、計画的な金銭管理の必要性や消費者トラブルの対応について考えたり、話し合ったりすることができる構成になっています。

その他、各者の特徴について報告書にまとめさせていただいておりますのでご覧ください。

学校調査会の集計結果につきましては、資料4の家庭のページでご確認ください。

最後に市民の声ですが、家庭に関しては9通のご意見をいただいております。

(坪田教育長)

説明が終わりましたので、技術・家庭（家庭分野）の採択に関する審議に入ります。ご意見、ご質問がありましたらお願いします。

では、鎌田委員先ほどもお触れがありましたけど、どうぞ。

(鎌田委員)

先ほど少し発言してしまったんですけども、私は開隆堂が良いと思います。

これは、調査専門委員会も学校調査会も東京書籍、開隆堂の順番ですし、それを尊重したいというふうに思いますけれども、また、東京書籍非常に良くできてると思います。しかし、優先順位を考えた場合に、この災害がどんどん頻発しそうだといいますか、もし来たら大きい災害があるかもしれないというところにあってですね、この開隆堂の方は、10ページ割いて説明してくれてるということは、これは多としなければいけないんじゃないかというふうに思います。従いまして、私は開隆堂を推したいと思います。以上です。

(坪田教育長)

はい。鎌田委員は開隆堂さんということですね。

では、山本委員お願いします。

(山本委員)

東京書籍さん全ページにQRコード付いてたり、とても良いと思うんですけども、私は教育図書さんが良いなと思ってます。理由は、口絵3～8のところで、日本の年中行事みたいなのところがずっと書かれていて、私主婦ですので、こういうものをすごく大事に子どもを育ててきたんですが、皆さん主婦の方たちも忙しくなり、こういうことをあまりやらずに過ごしてしまっている人達が多いんじゃないかなというふうに思います。今おせち料理作られるところもほとんどないって聞きますし、そういう意味でも、こういう昔からの行事を取り上げるっていうことは、非常に心の教育というか、豊かな気持ちになれる部分を残しているっていうことがすごく、子どもの道徳的な部分というか、日本の文化を教えるにあたって非常に良いんじゃないかと思っております。

内容は私達の頃の教科書とは違って、どの教科書もお料理とか、本当に美味しそうですし作ってみたいなって思いますし、昔は1個しか選択肢がないみたいな感じだったんですけど、お肉ならお肉の中でどれかを選べたり、お魚の中から作ってみたいのを選べたりっていうところは、本当に非常に皆さんどの教科書も工夫されているなというふうに思います。以上です。

(坪田教育長)

はい。ありがとうございます。

続きまして、栗生委員いかがでしょうか。

(栗生委員)

先ほどの技術同様、やはり実社会に近いという意味では、開隆堂さんが中学生の子ども達にとっても非常に実用的かなというふうに思います。ただ、先ほどの議論と同じなんですけれども、教科書としてとか、学びのプロセスとして上手く作られてるのが東京書籍さんかなと思いました。

(坪田教育長)

ありがとうございます。

では、中谷委員いかがでしょう。

(中谷委員)

3者の教科書を拝見をして、技術家庭ということで、先生が1人で教えられることもあるというふうにもお聞きします。時数も限られているところで、教えやすく、子どもが学びやすい、情報が適宜配置されていて、章扉であるとか編の扉であるとか、構成が栗生委員言われたようにテキストとしての整合性ということ自分の場合は、やはり重要であろうかというふうに考えて、東京書籍さんが良いかというふうに思っているんですが、なかなか大手さんなので色々経験値があってこういう構成が、まとまりが良いというふうに思うので、それをどう捉えるかだとは思いますが、使いやすさ、教えやすさ、学びやすさという観点を重視するという、そういう重点で私としてはそう評価します。

(坪田教育長)

はい。ありがとうございます。

では、水野委員お願いします。

(水野委員)

山本委員のおっしゃった行事食・郷土料理について調べましたら、学習指導要領にやはりポイントとしてあるものですから、教育図書のその巻頭口絵のところ非常にビジュアルで分かりやすく、年中行事と私たちの暮らしとして、示すところについては、なるほどと一定の共感があります。当然、学習指導要領に含まれておりますので、開隆堂さんにも、東京書籍にも含まれていること私も確認をさせていただきましたが、教科書らしく掲載されておりますね。ビジュアルでというよりも教科書らしく掲載という感じなんですけども。

家庭科は、生活の中から課題を見つけて実践を通して解決して生活に生かすというふうに学習指導要領にありまして、物事を考えたり、意見を整理したりする時のこの東京書籍の思考ツールっていうのは、非常に私は活用できるというふうに思っていました。この思考ツール、やはり技術と同じように本編でも使われているというところで、その点の一つ評価できるのかなと思っています。

あと、この技術分野と家庭分野を揃える必要も特に無いんですけども、揃えることによって、教材の配列ですとか、提示の仕方が似ているということで、子ども達にとって分かりやすいというメリットは一定あるのかなというふうに思います。ということで、私も東京書籍を推薦させていただこうと思います。

(坪田教育長)

はい。分かれましたが、それぞれごもっともでありますし、栗生委員からは開隆堂の良さと、学びのプロセスという意味では東京書籍のまとまりみたいな、少し両論併記もあったかなと。あと、山本委員からは教育図書の方だということですよという中でおります。

全体を俯瞰して、どなたかご意見をお願いしたいんですが。

(鎌田委員)

よろしいですか。

(坪田教育長)

はい。鎌田委員お願いします。

(鎌田委員)

私は、東京書籍を選ぶことに特段反対する訳ではないんですけども、ただ、私の意見として、これだけ災害の多い時代になってきてですね、それにこの東京書籍の教科書というのは本当にできてると思います。ただ、そこにもっとこの災害に対しての対応というのが、もっともっと書いてあればですね、これは二重丸といいますか、花丸といいますかそうなるんじゃないかなと。どちらを選ぶんだと言ったら、私はやはり開隆堂を選ぶんですね。従って、多数決で決めていただいて全く問題ないんですけども、開隆堂は1票ということで入れておいていただければ、それで十分です。よろしくお願いします。

(坪田教育長)

ありがとうございます。では、タブレットはあえて使いませんけども、鎌田委員は開隆堂、災害の多い国の中で、非常に内容として充実したところがあるというようなことでご推挙されたということは記録に残させていただきます。

ということでありまして、そういうのを踏まえたくうえで、全体お諮りしたいと思います。山本委員よろしいですか、一言お願いします。

(山本委員)

はい。教科書全般的に見させていただいて、東京書籍さんが良いのは分かっておりますので、鎌田委員と一緒にちょっと1票という感じで。

(坪田教育長)

はい。分かりました。テイクノートさせていただくということをしてもらうえですけども、それでは、技術・家庭（家庭分野）につきましては、東京書籍を採択してよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(坪田教育長)

ご異議なしと認め、そのように取り扱わせていただきます。

これにて、日程第2「令和7年度使用教科用図書の採択及び採択審議について」を終了いたします。残りの種目につきましては、8月7日に予定しております定例会にて採択を行いたいと思います。

また、傍聴の方も含め、ここにおられる皆様に再度お願いいたします。令和7年度使用教科用図書の採択に関しましては、県の指導により、採択結果は8月31日まで非公開となっております。採択などに関わる会議録、資料等につきましても、同様の取り扱いとなりますので、その旨ご理解のうえ、本日知り得た内容につきましては、ご配慮いただきますよう、お願いいたします。

それでは、日程第3へ移ります。これ以降の議事は非公開となりますので、傍聴者及び記者の方々のご退席いただければと思います。

日程第1から第3は非公開とされたため、名古屋市教育委員会会議規則第12条の規定により、会議録は別途作成。

午後5時40分終了